

九州大学粕屋演習林の鳥類

薛, 孝夫

柳川, 久

汰木, 達郎

<https://doi.org/10.15017/10819>

出版情報 : 九州大学農学部演習林報告. 55, pp.235-254, 1985-06-25. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :

九州大学粕屋演習林の鳥類

薛 孝夫・柳川 久・汰木達郎

Birds of Kyushu University Forest in Kasuya

Takao SETSU, Hisashi YANAGAWA
and Tatsurō YURUKI

要 旨

九州大学農学部附属粕屋演習林とその周辺の鳥類について、1983~84年に調査を実施し、12目26科69種の生息を確認した。福岡県内における季節移動の型で分類すると、冬鳥26種(37.7%)、留鳥22種(31.9%)、夏鳥12種(17.4%)、旅鳥9種(13.0%)であった。演習林のうち農地や農業用水池に隣接する丘陵地と、三郡山塊の一角をなす山地とでは鳥相が異なっている。これらの林地のほか、植物園的な整備がすすめられている事務所構内や、牧場の採草地などを含む粕屋演習林は、鳥類に多様な生息環境を提供しており、留鳥や夏鳥の繁殖地、冬鳥の越冬地、旅鳥の休息地として、また、冬期の採餌地としての役割を果たしているといえる。定期調査時以外に観察記録された2目5科7種を加え、計14目31科76種が本演習林の鳥類目録として記録された。

1. はじめに

九州大学粕屋演習林は福岡市近郊に位置し、大学キャンパスからの交通の便もよいため、学生実習地としての利用頻度が高く、また、大学以外の諸研究機関や地元一般施設からの見学・研修利用者も少なくない。このような大学演習林では、林学・林産学の専門的な研究教育だけでなく、利用対象やテーマを拡げた広い意味での教育的活用に対応することが望ましく、林地の自然環境についての基礎資料の収集・公表はその前提要件の一つとなっている。

粕屋演習林の地形・地質(木下ら, 1936)、および植物相(初島, 1934)に関しては、それぞれ専門的な調査報告がなされており、気象については観測結果が年報に掲載されている。しかしながら、動物相に関してのまとまった調査報告はなされておらず、例えば鳥相については、福岡高等学校生物研究部会(1974)や福岡県の自然を守る会(1978)による全県域を対象とした報告や、日本野鳥の会福岡支部の会報などの観察記録記事から推察することしかできなかった。

そこで、大学演習林としての基礎的資料の整備にわずかでも貢献できればという意図から、粕屋演習林の鳥相についてこれまで調査し得た資料を取りまとめて報告する。

2. 調査地の概要

図1に粕屋演習林における調査地の位置を示す。全体で16団地486.2haからなる粕屋演習林は標高30mから500mにわたり、その地形・地質や植生における特徴は、平野部に残存した丘陵地帯にあたる大浦・鬼ヶ浦団地（第9～11林班）と、三郡山塊の一角をなす山地帯に属するその他の団地とは異なっている（九州大学農学部附属演習林，1984）。演習林内では対照的な環境をもつと思われる二つの地区で、鳥類の生息状況について観察調査を行なった。

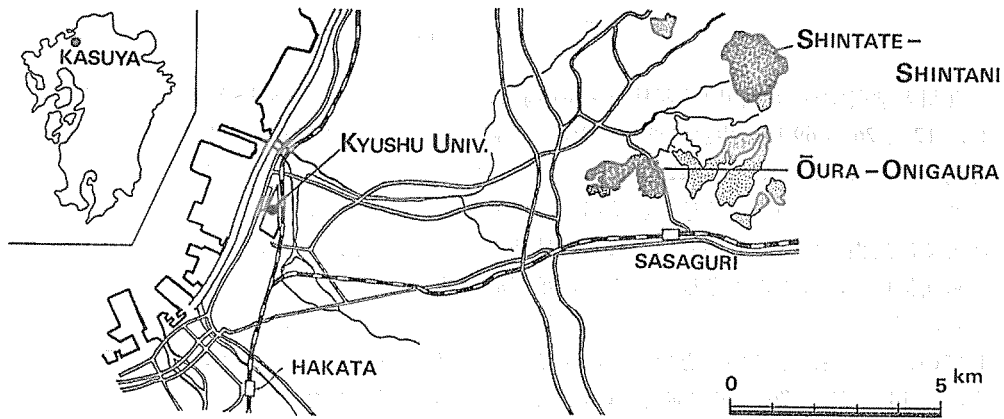


Fig. 1 Location of survey areas (densely dotted parts) in Kasuya Forest

図1 粕屋演習林における調査地の位置（濃い部分）

図2に新建・新谷団地（第13～19林班）における調査ルートと植生概況を示す。古生層で、標高200～500mの比較的急峻な山地地形をなす新建・新谷団地は、多々良川の一支流、新建川の源流部にあたる完結した集水域を形成している。本演習林でも最も林齢の高い110年生のスギ大径木林や同程度の林齢と推定される広葉樹自然林を含み、その約70%がスギ・ヒノキの人工林となっている。調査路線の沿道植生は両側とも針葉樹人工林の部分が約45%、同じく広葉樹自然林の部分が約30%、他は針広混交林か両側で植生の異なる部分であり、人工林の部分は林縁的環境となっている。

図3は、大浦・鬼ヶ浦団地（第9～11林班）における調査ルートと植生概況を示している。

第三紀層で標高100m以下の丘陵性の地形をなす大浦・鬼ヶ浦団地は、演習林事務所や薬用植物園、本学附属農場の牧場や果樹園を含んでおり、一部は水田や蒲田池、江辻池などの農業用水池に隣接している。自然植生は全般に貧弱で、いわゆる里山のな景観を呈している。なお、この地区は1992年11月までの期限で銃猟禁止区域に指定されている。

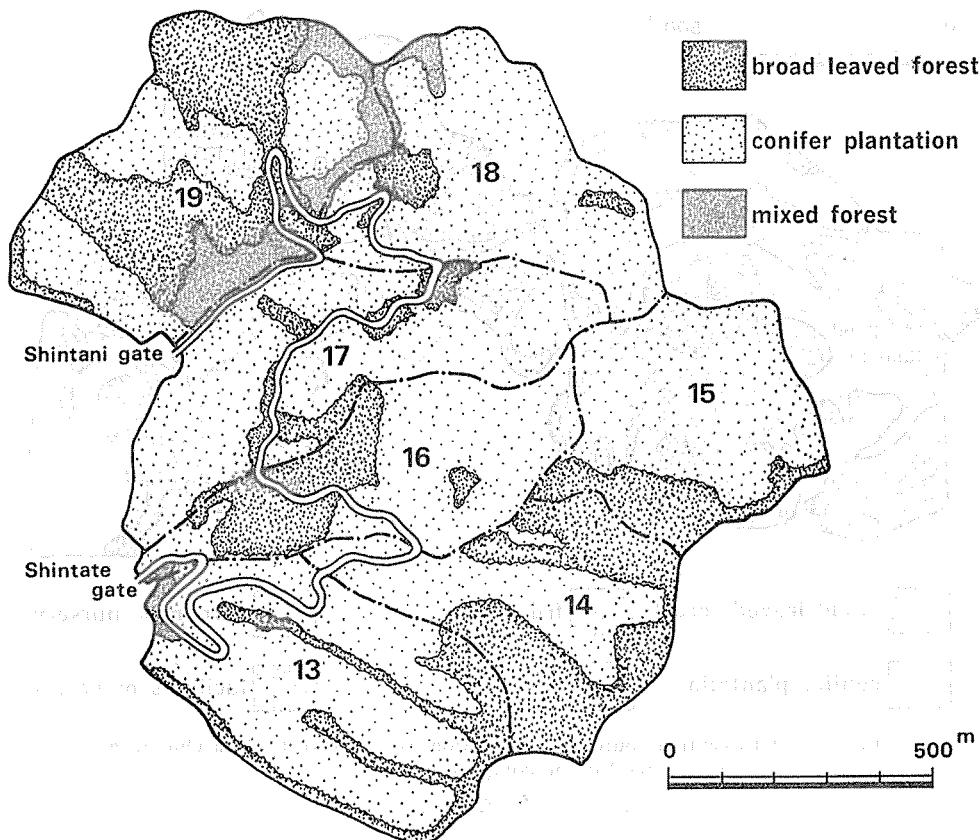


Fig. 2 Surveyed route and vegetation of mountain forest, Shintate-Shintani (Figure shows No. of compartment)

図2 新建・新谷団地における調査ルートと植生概況 (数字は林班番号)

3. 調査の時期および方法

定期的な観察調査を1983年2月から1984年1月にかけてそれぞれ13回、次の方法で実施した。

新建・新谷団地では林道の新建口から新谷口に至る3kmを定コースとするラインセンサス法によった。原則として時速2kmの速度で歩行しながら、左、右にそれぞれ25m幅の計50mにわたる調査帯内に出現する種と個体数を、鳴声と目視観察(必要に応じては、8倍双眼鏡を使用)で確認・記録した。調査帯外や調査地のごく近辺に観察されたものについても種名を記録した。調査時刻は日の出時刻から4時間以内とした。

大浦・鬼ヶ浦団地ではセンサス法を用いず、演習林事務所から蒲田池周辺までを蛇行中に観察された種を記録した。ここでの調査は、新建・新谷団地での調査と同じ日に行なわれたため、調査時刻は8時から10時頃になることが多かった。なお、種の配列と属名・種名は日本鳥学会(1974)によった。

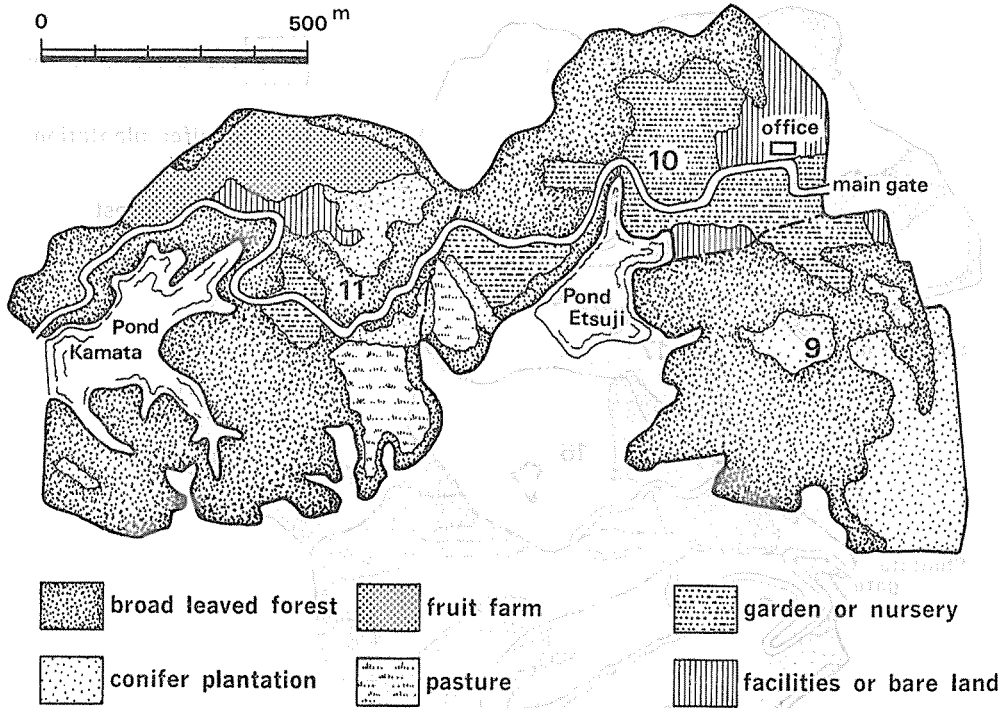


Fig. 3 Observation route and vegetation of hill forest, Ōura-Onigaura (Figure shows No. of compartment)

図3 大浦・鬼ヶ浦団地における調査ルートと植生概況 (数字は林班番号)

4. 調査結果および考察

上述の2調査区における調査結果を表1および2に示す。確認された鳥類は新建・新谷団地では7目19科46種、大浦・鬼ヶ浦団地では11目24科47種、両調査区共に観察された種は24種であった。

4.1. 両調査区における鳥相の差異

両調査区における出現種に着目して、共通係数つまり $CC = \frac{c}{a+b-c}$ (a, b : 各調査区における種数, c : 共通種数) を求めると0.35となり、近接した場所であるにもかかわらず比較的低い値を示す。このことは両調査区が鳥類の生息環境として互いになりに異質であることを示す。大浦・鬼ヶ浦団地だけに出現した種の中には、カイツブリ科、サギ科、ガンカモ科、チドリ科、シギ科の渉禽類や水禽類14種が含まれるが、これらの大部分は第11林班に隣接する蒲田池と、その周辺で観察された。試みにこれらの渉禽類や水禽類を除外して、両調査区の共通係数を算出すると0.44となる。

新建・新谷団地だけで見られた鳥類は、ハイツカ・ツツドリ・カワセミ・アオゲラ・ビンズイ・ミソサザイ・コマドリ・コルリ・クログミ・アカハラ・ヤブサメ・センダイム

シクイ・キビタキ・オオルリ・コサメビタキ・ヒガラなど22種で、森林性の鳥類が多い。一方、大浦・鬼ヶ浦団地だけで見られた鳥類は、上述の渉禽類や水禽類14種のほかにヒバリ・ツバメ・キレンジャク・スズメ・ハシボソガラスなど比較的に人里や農耕地を好む鳥類を加えて23種であった。また調査対象外とはしたが、ドバト('83.2.16, '83.4.23)も観察されている。

また、両調査区に共通して出現した種でも、観察された時期に相違が見られるものがあった。例えば、モズは大浦・鬼ヶ浦団地ではほぼ周年観察されたが、新建・新谷団地では11月に観察されただけであった。逆に、メジロは新建・新谷団地ではほぼ周年にわたり多数が観察されたが、大浦・鬼ヶ浦団地では10月と12月に数羽が観察されたに過ぎなかった。ヤマガラ・シジュウカラ・エナガなどのカラ類も、新建・新谷団地ではほぼ周年観察されているが、大浦・鬼ヶ浦団地では夏期と冬期には観察例が少なかった。また、コジュケイは大浦・鬼ヶ浦団地では5月下旬から9月にかけて観察されたが、新建・新谷団地では9月から12月にかけて見られた。

4.2. 季節による鳥相の変化

本調査で観察された69種を福岡県高等学校生物研究部会(1974)に従って分類すると、冬鳥26種(37.7%)、留鳥22種(31.9%)、夏鳥12種(17.4%)、旅鳥9種(13.0%)となる。これを調査区別に見ると新建・新谷団地では全46種中、冬鳥16種(34.8%)、留鳥16種(34.8%)、夏鳥8種(17.4%)、旅鳥6種(13.0%)となり、大浦・鬼ヶ浦団地では全47種中、冬鳥20種(42.5%)、留鳥17種(36.2%)、夏鳥7種(14.9%)、旅鳥3種(6.4%)となる。

図4および5は出現種数の季節変動を調査区ごとに示したものである。新建・新谷団地における出現種数をみると、4月に最も多い22種が記録された後、6月からは減少して8~9月に最少の14種となり、冬鳥の渡来する11月に中間的なピークを示し、冬期には

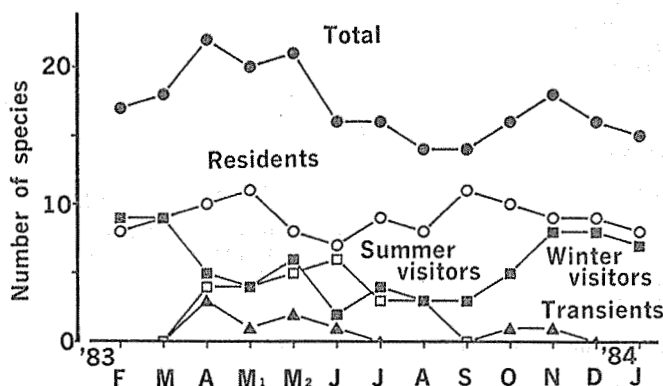


Fig. 4 Changes of the number of species observed in mountain forest, Shintate-Shintani

F, Feb. 16; M, Mar. 15; A, Apr. 23; M₁, May 4; M₂, May 27; J, Jun. 28; J, Jul. 13; A, Aug. 23; S, Sep. 14; O, Oct. 13; N, Nov. 12; D, Dec. 20; J, Jan. 24.

図4 新建・新谷団地における出現種数の季節変動

表1 新建・新谷団地で
Table 1 Birds observed in mountain forest,

Species		'83	Mar. 15	Apr. 23	May 4
		Feb. 16			
<i>Milvus migrans</i>	ト			+	
<i>Accipiter nisus</i>	ハ イ タ		+		
<i>Butastur indicus</i>	コ シ ケ			1 (1.6)	+
<i>Bambusicola thoracica</i>	ジュ				
<i>Phasianus colchicus</i>	キ				
<i>Streptopelia orientalis</i>	キ ジ	1 (0.8)	1 (1.2)	4 (6.3)	5 (9.8)
<i>Sphenurus sieboldii</i>	ア オ			+	
<i>Cuculus saturatus</i>	ツ ッ			+	+
<i>C. poliocephalus</i>	ホ ト				
<i>Alcedo atthis</i>	カ ワ				+
<i>Picus awokera</i>	ア オ	1 (0.8)		2 (3.2)	+
<i>Dendrocopos kizuki</i>	コ ゲ	2 (1.5)	1 (1.2)	+	3 (5.9)
<i>Delichon urbica</i>	イ ワ				
<i>Motacilla cinerea</i>	キ セ				
<i>M. alba</i>	ハ ク				
<i>Anthus hodgsoni</i>	ビ				
<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サ				
<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒ ヨ	13 (9.8)	20 (23.3)	10 (15.9)	15 (29.4)
<i>Lanius bucephalus</i>	モ				
<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミ	1 (0.8)			
<i>Erithacus akahige</i>	コ			1 (1.6)	
<i>E. calliope</i>	ノ				
<i>E. cyane</i>	コ				
<i>Tarsiger cyanurus</i>	ル				
<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジ	1 (0.8)			
<i>Turdus cardis</i>	ク			+	
<i>T. chrysolaus</i>	ア	+	+		
<i>T. naumanni</i>	ツ	50 (37.9)	29 (33.7)		
<i>Cettia squameiceps</i>	ヤ			+	2 (3.9)
<i>C. diphone</i>	ウ	1 (0.8)	1 (1.2)	2 (3.2)	4 (7.8)
<i>Phylloscopus occipitalis</i>	セ			4 (6.3)	1 (2.0)
<i>Regulus regulus</i>	キ				
<i>Ficedula narcissina</i>	キ				
<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オ			2 (3.2)	+
<i>Muscicapa latirostris</i>	コ				
<i>Aegithalos caudatus</i>	エ		2 (2.3)	4 (6.3)	+
<i>Parus ater</i>	ヒ	2 (1.5)	+		1 (2.0)
<i>P. varius</i>	ヤ	5 (3.8)	5 (5.8)	6 (9.5)	4 (7.8)
<i>P. major</i>	シ	5 (3.8)	3 (3.5)	4 (6.3)	4 (7.8)
<i>Zosterops japonica</i>	メ		4 (4.7)	5 (7.9)	3 (5.9)
<i>Emberiza cioides</i>	ホ	7 (5.3)	5 (5.8)	10 (15.9)	2 (3.9)
<i>E. rustica</i>	カ		2 (2.3)		
<i>E. elegans</i>	ミ	10 (7.6)	3 (3.5)		
<i>Carduelis sinica</i>	カ	31 (23.5)	10 (11.6)	5 (7.9)	6 (11.8)
<i>Garrulus glandarius</i>	カ	1 (0.8)	+	3 (4.8)	+
<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハ	1 (0.8)	+	+	1 (2.0)
Total number of birds		132 (100)	86 (100)	63 (100)	51 (100)
Number of species		17	18	22	20

Figures indicate the number of birds recorded in 50 m×3 km strip plot. The outside the plot are represented with plus marks.

観察された鳥類

Shintate-Shintani

Date of survey								
May 27	Jun. 28	Jul. 13	Aug. 23	Sep. 14	Oct. 13	Nov. 12	Dec. 20	'84 Jan. 24
1 (1.9) 1 (1.9) +	+	+	+	1 (1.7) 1 (1.7) 4 (6.8)	1 (1.4) 3 (4.1)	1 (1.0)	+	2 (3.2)
2 (3.8) 1 (1.9) +	3 (5.3)	1 (1.7) 5 (8.5)	1 (2.0) +	1 (1.7) 1 (1.7) 1 (1.7)	2 (2.7)	+	1 (1.0)	3 (4.8) +
7 (13.2) 1 (1.9)	10 (17.5)	12 (20.3) 1 (1.7)	11 (22.0)	15 (25.4)	18 (24.3) 1 (1.4)	19 (19.4) 1 (1.0) 2 (2.0)	7 (7.3) 2 (2.1)	2 (3.2)
2 (3.8)	2 (3.5) 4 (7.0)	2 (3.4) 4 (6.8)	1 (2.0)	+	1 (1.4) 2 (2.7)	1 (1.0) 4 (4.1) 6 (6.1) 4 (4.1)	2 (2.1) 2 (2.1) 1 (1.0)	1 (1.6)
1 (1.9) 2 (3.8) 2 (3.8) 6 (11.3) 3 (5.7) 4 (7.5) 16 (30.2)	2 (3.5) 1 (1.8) 1 (1.8)	+	1 (2.0)		3 (4.1)	2 (2.0)	4 (4.2)	8 (12.9) 2 (3.2)
2 (3.8) 2 (3.8) +	3 (5.3) 4 (7.0)	3 (5.1) 1 (1.7) 6 (10.2)	5 (10.0) +	6 (10.2) +	10 (13.5) 7 (9.5) +	23 (23.5) 3 (3.1) 14 (14.3) +	17 (17.7) 11 (11.5) 3 (3.1) 3 (3.1)	8 (12.9) 11 (17.7) 3 (4.8) +
53 (100)	57 (100)	59 (100)	50 (100)	59 (100)	74 (100)	98 (100)	96 (100)	62 (100)
21	16	16	14	14	16	18	17	15

percentages of relative dominance are shown in parentheses. Species observed

表2 大浦・鬼ヶ浦団地で
Table 2 Birds observed in hill forest,

Species		'83 Feb. 16	Mar. 15	Apr. 23	May 4
<i>Podiceps ruficollis</i>	カ イ ツ ブ リ			○	○
<i>Nycticorax nycticorax</i>	ゴ イ サ サ ギ				○
<i>Bubulcus ibis</i>	ア マ サ ギ				○
<i>Egretta garzetta</i>	コ ア サ ギ				○
<i>Ardea cinerea</i>	ア オ サ ギ		○		
<i>Aix galericulata</i>	オ シ ド リ				
<i>Anas platyrhynchos</i>	マ ガ リ	○	○		
<i>A. poecilorhyncha</i>	カ ル ガ	○	○	○	
<i>A. crecca</i>	コ ガ	○	○		
<i>A. penelope</i>	ヒ ド リ		○		
<i>Butastur indicus</i>	サ シ バ				○
<i>Bambusicola thoracica</i>	コ ジ ユ ケ				○
<i>Charadrius dubius</i>	コ チ ド				○
<i>C. placidus</i>	イ カ ル チ				○
<i>Tringa brevipes</i>	イ キ ア シ				○
<i>T. hypoleucos</i>	イ キ ア シ				○
<i>Streptopelia orientalis</i>	イ キ ジ	○		○	○
<i>Sphenurus sieboldii</i>	ア オ		○		
<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホ ト				○
<i>Dendrocopos kizuki</i>	コ ゲ		○	○	○
<i>Alauda arvensis</i>	ヒ バ リ		○	○	○
<i>Hirundo rustica</i>	ツ バ			○	○
<i>Delichon urbica</i>	ワ ツ		○		
<i>Motacilla cinerea</i>	イ キ セ				
<i>M. alba</i>	ハ ク				
<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒ ヨ	○	○	○	○
<i>Lanius bucephalus</i>	モ	○	○		○
<i>Bombycilla garrulus</i>	キ レ				○
<i>Tarsiger cyanurus</i>	ル リ				○
<i>Phoenicurus aureus</i>	ジ ヨ	○			
<i>Saxicola torquata</i>	ノ ビ				
<i>Turdus pallidus</i>	シ ロ				
<i>T. naumanni</i>	ツ グ	○	○	○	
<i>Cettia diphone</i>	ウ イ	○	○	○	○
<i>Regulus regulus</i>	キ ク	○			
<i>Aegithalos caudatus</i>	エ ナ		○		
<i>Parus varius</i>	ヤ マ	○	○		
<i>P. major</i>	シ ジ	○	○	○	
<i>Zosterops japonica</i>	メ ジ				
<i>Emberiza cioides</i>	ホ オ	○	○	○	○
<i>E. elegans</i>	ミ ヤ	○	○		
<i>E. spodocephala</i>	ア オ			○	○
<i>Carduelis sinica</i>	カ ワ	○	○	○	○
<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シ	○	○	○	○
<i>Passer montanus</i>	ス ズ	○	○	○	○
<i>Corvus corone</i>	ハ シ	○			
<i>C. macrorhynchos</i>	ハ シ	○	○	○	○
Number of species		19	21	16	20

再度減少している（図4）。大浦・鬼ヶ浦団地では出現種数は不規則に推移しており、最高は3月の21種、最低は8月の10種である（図5）。両調査区を比較して、大浦・鬼ヶ浦団地の方が夏鳥の観察される期間が長いこと、および少なくとも調査を行なった日時に基づく限り、春から初夏にかけての旅鳥の観察例がなかったことなどがわかる。

観察された鳥類
Ōura-Onigauro

Date of survey								
May 27	Jun. 28	Jul. 13	Aug. 23	Sep. 14	Oct. 13	Nov. 12	Dec. 20	'84 Jan. 24
○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○	○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
○	○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	○ ○	○	○ ○	○ ○
○ ○	○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○
○ ○ ○ ○	○	○	○	○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○
○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○
16	17	19	11	14	16	13	15	16

図6は両調査区を合わせた出現種数の季節変動を示したものである。出現種数は5月に最も多い32種となり、その後減少して8～9月には最少の21種となり、再び増加している。夏鳥のピークは6月の10種である。留鳥は年間を通じて10～16種が見られ、冬期に少ない。冬鳥のピークは1～2月の14種である。

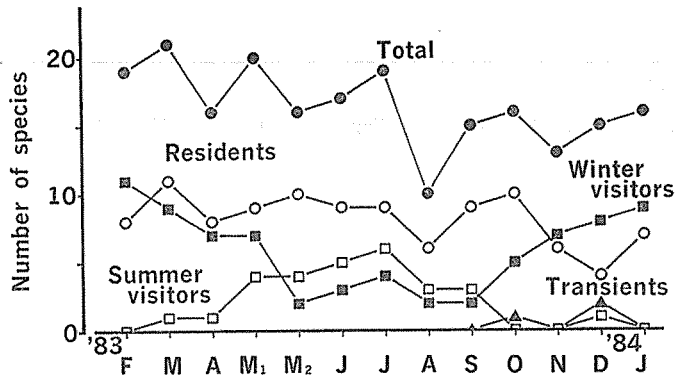


Fig. 5 Changes of the number of species observed in hill forest, Ōura-Onigaura
Abbreviation is the same as in Fig. 4

図5 大浦・鬼ヶ浦団地における出現種数の季節変動

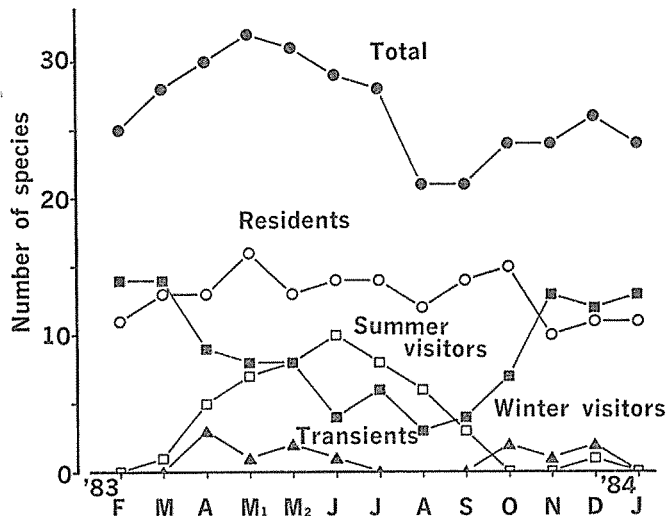


Fig. 6 Changes of the number of species observed in either mountain or hill forest
Abbreviation is the same as in Fig. 4

図6 両調査区を合わせた出現種数の季節変動

両調査区とも夏期に冬鳥が2~4種観察されたことになる。これら冬鳥のうちキジバト、ヒヨドリ、カワラヒワ(以上、両調査区)、カケス(新建・新谷団地)およびカルガモ(大浦・鬼ヶ浦団地)の5種は、福岡県高等学校生物研究部会(1974)にも一部が留まって繁殖する旨の記載があり、粕屋演習林においてはカワラヒワとカルガモを除いて観察される個体数に大きな季節変動は見られない。新建・新谷団地で見られたミンサザイは冬鳥とされているものの、調査地においてはほぼ通年観察されている。

4.3. 稀少種および繁殖に関する知見

調査期間中に1回限り記録された鳥類のうち、オシドリ（雄，'83.11.12，蒲田池），ハイタカ（'83.3.15，第18～19林班），カワセミ（'83.5.4，久原川），ノゴマ（雄，'83.11.12，第14林班），コルリ（'83.10.13，第19林班），コサメビタキ（'83.6.28，第14林班）はそれぞれ1個体が観察されただけであった。特にカワセミが観察された溪流は，その後砂防ダムの敷地として工事が進められているので，現在は生息していないと思われる。

また，蒲田池周辺では，1983年10月13日に通常のハクセキレイ *Motacilla alba lugens* 2羽と共に，黒色の眼下線を欠く亜種，ホオジロハクセキレイ *M. a. leucopsis* が1羽観察された。これは福岡県では観察例の少ない亜種であるが（福岡県高等学校生物研究部会，1974）（福岡県の自然を守る会，1978），本調査地周辺では，粕屋町大隈（'83.8.31）と博多区月隈（'83.9.2）で1羽ずつ観察されている（日本野鳥の会福岡支部，1983）。

新建・新谷団地ではオオルリの若鳥が8月に観察されている。サンバ（新建・新谷団地）とカルガモ（大浦・鬼ヶ浦団地）は番いと思われる2個体がほぼ一夏を通して観察されており，いずれも繁殖している可能性が高い。また，蒲田池ではコチドリ（5月上旬）およびイカルチドリ（6～7月）の繁殖期に特有な旋回飛行を観察した。

アオバトは大浦・鬼ヶ浦団地で3月に数羽の群れが観察され，新建・新谷団地で4月と5月に観察されている。福岡県では，アオバトは冬期に多数渡来し，その一部が残留して繁殖することが知られており，新建・新谷団地で観察された個体はこれらの残留個体であると思われる。また，福岡県内では英彦山などで繁殖することが知られていたヒガラが，5月に新建・新谷団地で観察されている。初夏のヒガラは，最近古処山（'83.6.19）および高良山（'84.6.10）などでも観察されている（日本野鳥の会福岡支部，1983・1984）。

ハクセキレイは福岡では従来冬鳥とされ，大浦・鬼ヶ浦団地では10～11月に観察されているが，新建・新谷団地では5月下旬にも観察された。本種は現在活発に繁殖分布を広げつつあり，福岡市内からも幾つかの繁殖例が報告されている（樋口ら，1983）。当調査区でも繁殖している可能性がある。

4.4. 新建・新谷団地における優占種

表1に示した新建・新谷団地における出現種のうち，相対優占度の高いもの3種（個体数が同じ場合は4～5種）とそれらの合計優占率を図7に示す。これら3種（または4～5種）の合計優占率は4月を除き，ほぼ50～70%の間にある。特に2～3月と6，8，9月に高い値を示すのは，それぞれの月にツグミとカワラヒワ（2，3月），およびメジロ（6，8，9月）の群れが観察されたためである。

ヒヨドリは厳冬期の12～1月を除くすべての月で上位3種の中に含まれている。その他の優占種として，夏期にはメジロとシジュウカラ，ヤマガラおよびエナガなどのカラ類が，また冬期にはホオジロとミヤマホオジロなどのホオジロ類が目立つ。

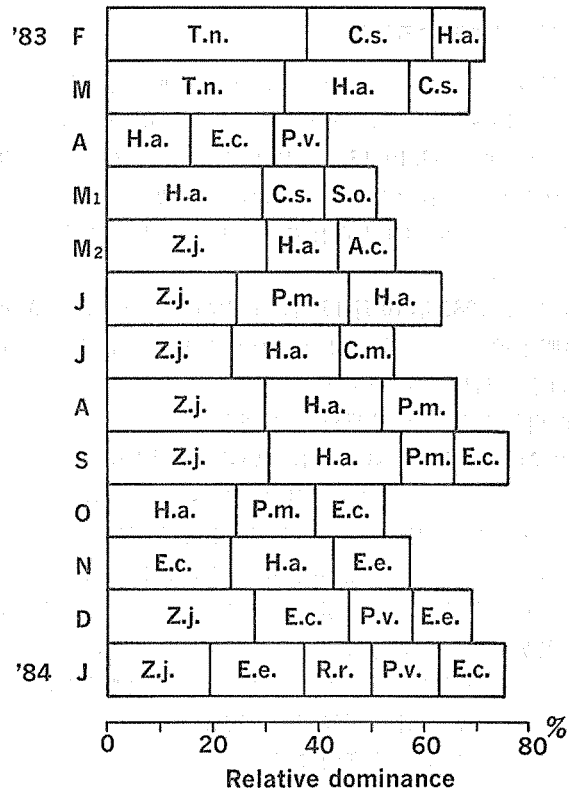


Fig. 7 Dominant species in mountain forest, Shintate-Shintani

S. o., *Streptopelia orientalis*; H. a., *Hypsipetes amaurotis*; T. n., *Turdus naumanni*; R. r., *Regulus regulus*; A. c., *Aegithalos caudatus*; P. v., *Parus varius*; P. m., *P. major*; Z. j., *Zosterops japonica*; E. c., *Emberiza cioides*; E. e., *E. elegans*; C. s., *Carduelis sinica*; C. m., *Corvus macro-rhynchos*

Abbreviation of the date of survey is the same as in Fig. 4

図7 新建・新谷団地における優占種

4.5. 粕屋演習林鳥類目録

定期的に行なった調査以外に、この期間中に演習林内で観察された2目5科7種を加えると、本演習林に生息する鳥類は14目31科76種となる。調査の期間および方法とも充分とはいえないが、結果を鳥類目録として以下に示す。学名の表記は亜種名を避けて種名までとし、命名者名も省略した。なお、定期調査以外に観察されたものには観察者名を付記した。

柏屋演習林鳥類目録

List of birds observed in Kasuya Forest

カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES

カイツブリ科 Podicipitidae

1. カイツブリ [Little Grebe (R)] *Podiceps ruficollis*

留鳥。初夏、蒲田池・江辻池・高橋池などで数羽観察される。

コウノトリ目 CICONIIFORMES

サギ科 Ardeidae

2. ゴイサギ [Black-crowned Night Heron (S/W/T)] *Nycticorax nycticorax*

夏期、蒲田池に数羽。1983.6.28には幼鳥2羽を観察。福岡県内では大部分が夏鳥だが、北方で繁殖して冬期に南下して来る個体群や旅鳥として通過する個体群もある。

3. アマサギ [Cattle Egret (S)] *Bubulcus ibis*

夏鳥。夏期、第11林班の牧場や周辺の田などに普通に見られる。

4. コサギ [Little Egret (S/R)] *Egretta garzetta*

県内では夏鳥として渡来するものが多いが、一部は残留して越冬する。演習林付近の田畑では周年観察される。特に夏期には多く、事務所の庭でも採餌する。

5. アオサギ [Grey Heron (R/W)] *Ardea cinerea*

県内では留鳥だが、冬鳥として渡来する個体群もある。蒲田池で '83.3.15, '83.6.28, '83.7.13に数羽を、'83.10.13には最も多い16羽を観察した。

ガンカモ目 ANSERIFORMES

ガンカモ科 Anatidae

6. オシドリ [Mandarin Duck (W)] *Aix galericulata*

冬鳥。蒲田池で '83.11.12に雄1羽が観察されただけで、演習林周辺では稀れ。

7. マガモ [Mallard (W)] *Anas platyrhynchos*

冬鳥。蒲田池で11~3月に数羽~30羽程度の群れが観察される。

8. カルガモ [Spotbill Duck (W/R)] *Anas poecilorhyncha*

冬期に多数が渡来するが、県内で繁殖するものも多い。蒲田池ではほぼ周年、冬期は20~50羽程度の群れで観察される。1982年までは江辻池でも営巣していた。

9. コガモ [Teal (W)] *Anas crecca*

冬鳥。蒲田池で12~3月に数羽~30羽程度の群れが見られる。

10. ヒドリガモ [Wigeon (W)] *Anas penelope*

冬鳥。1983.3.15、蒲田池で10羽程度の群れを観察。一時的な休息か？

ワシタカ目 FALCONIFORMES

ワシタカ Accipitridae

11. トビ [Black kite (R)] *Milvus migrans*

留鳥。稀れではないが、調査期間中には '83.4.23 (第15~19林班上空) の記録だけ。

12. ハイタカ [Sparrow Hawk (W)] *Accipiter nisus*

冬鳥。1983.3.15に第18~19林班で1羽観察された。

13. サシバ [Gray-faced Buzzard-Eagle (S/T)] *Butastur indicus*

夏鳥。春秋の渡りの時期に県内を通過する個体群もある。夏期、新建・新谷団地、大浦・鬼ヶ浦団地とも1～2羽観察され、特に新建・新谷団地では営巢の可能性がある。

キジ目 GALLIFORMES

キジ科 Phasianidae

14. コジュケイ [Bamboo Partridge (R)] *Bambusicola thoracica*

留鳥。大浦・鬼ヶ浦団地で5～9月に普通に鳴声を聞く。第19林班でもよく出会う。

15. キジ (Common Pheasant (R)) *Phasianus colchicus*

留鳥。第18林班で'83. 9. 14に雄1羽。1978年夏には第10林班の事務所周辺でも観察された。

チドリ目 CHARADRIIFORMES

チドリ科 charadriidae

16. コチドリ [Little Ringed Plover (W/R)] *Charadrius dubius*

大部分は冬鳥だが、県内でも一部繁殖する。1983. 5. 4に蒲田池付近の空地で巡回飛行中の3羽を観察した。

17. イカルチドリ [Long-billed Ringed Plover (R)] *Charadrius placidus*

留鳥。1983年6～8月、蒲田池および周辺で番いと思われる2羽を観察した。

シギ科 Scolopacidae

18. キアシシギ [Asian Wandering Tattler (T)] *Tringa brevipes*

旅鳥。1983. 12. 20、蒲田池で1羽だけ観察された。

19. イソシギ [Common Sandpiper (T)] *Tringa hypoleucos*

旅鳥。1983. 12. 20、蒲田池付近で1羽を観察した。演習林周辺では稀れ。

カモメ科 Laridae

20. コアジサシ [Little Tern (S)] *Sterna albifrons*

夏鳥。1984. 6. 14、蒲田池で採餌中の1羽を観察した(柳川)。

ハト目 COLUMBIFORMES

ハト科 Columbidae

21. キジバト [Rufous Turtle Dove (W/R)] *Streptopelia orientalis*

三郡山地などで繁殖するが、県内全般では冬期に渡来するものが多く、冬鳥、一部留鳥とされる。新建・新谷団地、大浦・鬼ヶ浦団地ともに周年普通に見られる。

22. アオバト [Japanese Green Pigeon (W/R)] *Sphenurus sieboldii*

前種と同様の理由で冬鳥、一部留鳥。1983. 3. 15、第11林班で数羽の群れを、'83. 4. 23と'83. 5. 27に第14～16林班で1羽を観察した。

ホトトギス目 CUCULIFORMES

ホトトギス科 Cuculidae

23. カッコウ [Common Cuckoo (T)] *Cuculus canorus*

県内には春の渡りの途中に一時立寄る旅鳥。第10林班で'83. 5. 28と'83. 6. 2にそれぞれ午後の数時間だけ鳴声を聞いた(諺)。移動中の別個体か？

24. ツツドリ [Himalayan Cuckoo (T)] *Cuculus saturatus*

前種と同様の旅鳥。新建・新谷団地で4～6月によく声を聞く。1983年の初認は4.13.

25. ホトトギス [Little Cuckoo (S/T)] *Cuculus poliocephalus*

夏鳥。一部はさらに北方へ渡る旅鳥。大浦・鬼ヶ浦団地では5～7月に普通に観察される。1983年の初鳴は5.30, '84年は6.2.

フクロウ目 STRIGIFORMES

フクロウ科 Strigidae

26. アオバズク [Brown Hawk Owl (S)] *Ninox scutulata*

夏鳥。1983.6.2～6.6の夜間、第9林班の広葉樹林で鳴声を聞いた(高橋・薛)。

ヨタカ目 CAPRIMULGIFORMES

ヨタカ科 Caprimulgidae

27. ヨタカ [Jungle Nightjar (S)] *Caprimulgus indicus*

夏鳥。1983.6.16, 第10林班の若い広葉樹林内で鳴声を聞いた(薛)。

ブッポウソウ目 CORACIIFORMES

カワセミ科 Alcedinidae

28. カワセミ [Kingfisher (R)] *Alcedo atthis*

留鳥。1983.5.4, 新建・新谷団地入口の久原川で1羽を観察した。本種の観察はこの時だけで、県内でも減少しつつある。

キツツキ目 PICIFORMES

キツツキ科 Picidae

29. アオゲラ [Japanese Green Woodpecker (R)] *Picus awokera*

留鳥。個体数は多くないが、新建・新谷団地でほぼ周年観察される。

30. コゲラ [Japanese Pygmy Woodpecker (R)] *Dendrocopos kizuki*

留鳥。新建・新谷団地、大浦・鬼ヶ浦団地ともほぼ周年普通に観察される。

スズメ目 PASSERIFORMES

ヒバリ科 Alaudidae

31. ヒバリ [Skylark (R)] *Alauda arvensis*

留鳥。第10～11林班および周辺農耕地で3～5月に普通に観察される。

ツバメ科 Hirundinidae

32. ツバメ [House Swallow (S)] *Hirundo rustica*

夏鳥。大浦・鬼ヶ浦団地とその周辺で4～8月に普通に観察される。

33. イワツバメ [House Martin (S)] *Delichon urbica*

夏鳥。1983.3.15に第10林班上空で、'83.8.23に第15～19林班上空で観察された。

セキレイ科 Motacillidae

34. キセキレイ [Grey Wagtail (R)] *Motacilla cinerea*

留鳥。1983.8.29と'83.9.14に久原川上流で1羽を、'83.10.13に蒲田池で2羽を観察した。

35. ハクセキレイ [White Wagtail (W)] *Motacilla alba*

冬鳥。1983.5.27, 久原川で1羽を、'83.10～11月には蒲田池周辺で数羽を観察し

た。

36. ビンズイ [Olive-backed Pipit (W)] *Anthus hodgsoni*

冬鳥. 1984. 1. 24, 第16林班で1羽のさえずりを聞いた。

サンショウクイ科 Campephagidae

37. サンショウクイ [Ashy Minivet (T)] *Pericrocotus divaricatus*

県内では春の北上期に目立つ旅鳥. 1983. 5. 27, 第16~17林班でさえずりを聞いた。

ヒヨドリ科 Pycnonotidae

38. ヒヨドリ [Brown-eared Bulbul (W/R)] *Hypsipetes amaurotis*

県内で繁殖するが、冬期に渡来するものが多い。冬鳥、一部留鳥。演習林内では、新建・新谷団地、大浦・鬼ヶ浦団地とも周年普通に観察される。

モズ科 Laniidae

39. モズ [Bull-headed Shrike (R)] *Lanius bucephalus*

留鳥。大浦・鬼ヶ浦団地ではほぼ周年普通に観察される。新建・新谷団地では'83. 11. 12に一度だけ記録された。

レンジャク科 Bombycillidae

40. キレンジャク [Waxwing (W/T)] *Bombycilla garrulus*

県内では大部分が冬鳥、一部旅鳥。1983. 5. 4, 第11林班で14羽の群れを観察した。

カワガラス科 Cinclidae

41. カワガラス [Brown Dipper (R)] *Cinclus pallasii*

留鳥。1983. 6. 30. 第2林班の鳴瀬川で1羽を観察した(薛・椎葉・矢山)。演習林周辺では稀れ。

ミソサザイ科 Troglodytidae

42. ミソサザイ [Wren (W)] *Troglodytes troglodytes*

冬鳥。観察例は少ないが、新建・新谷団地ではほぼ周年見られる。

ヒタキ科 Muscipidae

43. コマドリ [Japanese Robin (T)] *Erithacus akahige*

旅鳥。1983. 4. 23. 第19林班で数羽を観察した。記録されたのはこの1回だけ。

44. ノゴマ [Siberian Rubythroat (T)] *Erithacus calliope*

旅鳥。1983. 11. 12, 第14林班で雌1羽を観察した。福岡県内を10~11月に通過するが、少ない。

45. コルリ [Siberian Blue Robin (T)] *Erithacus cyane*

旅鳥。1983. 10. 13, 第19林班で1羽を観察した。

46. ルリビタキ [Siberian Bluechat (W)] *Tarsiger cyanurus*

冬鳥。1983. 10. 13に第11林班で、'83. 11. 12と'83. 12. 20に第13~14林班で数羽を観察した。

47. ジョウビタキ [Daurian Redstart (W)] *Phoenicurus auroreus*

冬鳥。新建・新谷団地では'83. 1. 16の雄1羽の記録だけ。大浦・鬼ヶ浦団地では冬期に普通で、駐車中の車のサイドミラーを覗き込んだりする様が観察される。

48. ノビタキ [Stonechat (T)] *Saxicola torquata*
旅鳥. 1983. 10. 13, 蒲田池付近の空地で1羽を観察した.
49. クロツグミ [Grey Thrush (T)] *Turdus cardis*
旅鳥. 1983. 4. 23, 第13林班で1羽のさえずりを聞いた. 春の渡りに多数通過するという.
50. アカハラ [Brown Thrush (W)] *Turdus chrysolaus*
冬鳥. 1983. 2. 16と'83. 3. 15に第16林班でそれぞれ1羽を観察した. 少ない.
51. シロハラ [Pale Thrush (W)] *Turdus pallidus*
冬鳥. 1984. 1. 24, 第11林班で数羽を観察した.
52. ツグミ [Dusky Thrush (W)] *Turdus naumanni*
冬鳥. 新建・新谷団地, 大浦・鬼ヶ浦団地とも11~4月に普通に見られる. 特に1~2月には大群で, 時にヒヨドリとの混群でナンキンハゼなどに集まる.
53. ヤブサメ [Short-tailed Bush Warbler (S)] *Cettia squameiceps*
夏鳥. 夏期, 新建・新谷団地で普通に見られる.
54. ウグイス [Bush Warbler (R)] *Cettia diphone*
留鳥. 新建・新谷, 大浦・鬼ヶ浦団地ともほぼ周年普通に観察される.
55. センダイムシクイ [Crowned Willow Warbler (S)] *Phylloscopus occipitalis*
夏鳥. 新建・新谷団地で4~5月に普通に観察される.
56. キクイタダキ [Goldcrest (W)] *Regulus regulus*
冬鳥. 1983. 2. 16, 第11林班で, '84. 1. 24, 第13林班でそれぞれ10羽前後の群れを観察した.
57. キビタキ [Narcissus Flycatcher (S)] *Ficedula narcissina*
夏鳥. 1983. 5. 27と'83. 6. 28に第16~17林班で観察した.
58. オオルリ [Blue-and-white Flycatcher (S)] *Cyanoptila cyanomelana*
夏鳥. 個体数は多くないが, 夏期, 新建・新谷団地で普通に観察される.
59. コサメビタキ [Brown Flycatcher (S)] *Muscicapa latirostris*
夏鳥. 1983. 6. 28, 第14林班で1羽を観察した.
- エナガ科 Aegithalidae
60. エナガ [Long-tailed Tit (R)] *Aegithalos caudatus*
留鳥. 新建・新谷団地では周年普通に観察される.
- シジュウカラ科 Paridae
61. ヒガラ [Coal Tit (R/W)] *Parus ater*
留鳥, 一部冬鳥. 1983. 2. 16と'83. 3. 15に新建・新谷団地で数羽を, '83. 5. 4に第13林班で1羽を観察した.
62. ヤマガラ [Varied Tit (R)] *Parus varius*
留鳥. 新建・新谷団地では周年, 大浦・鬼ヶ浦団地では2~5月に観察される.
63. シジュウカラ [Great Tit (R)] *Parus major*
留鳥. 新建・新谷団地では周年, 大浦・鬼ヶ浦団地では2~5月と9~10月に観察される. 毎年, 第10林班の事務所周辺で, 季節はずれと思われる10月に美しいさえずりが聞かれる.

メジロ科 Zosteropidae

64. メジロ [Japanese White-eye (R/W)] *Zosterops japonica*

留鳥，一部冬鳥。新建・新谷団地では周年，第11林班では10～12月に数羽の群れで観察される。

ホオジロ科 Emberizidae

65. ホオジロ [Siberian Meadow Bunting (R)] *Emberiza cioides*

留鳥。新建・新谷団地，大浦・鬼ヶ浦団地とも周年普通に観察される。特に冬期は十数羽の群れで見られることが多い。

66. カシラダカ [Rustic Bunting (W)] *Emberiza rustica*

冬鳥。1983. 3. 15と'83. 11. 12に第14～16林班で数羽を観察した。

67. ミヤマホオジロ [Yellow-throated Bunting (W)] *Emberiza elegans*

冬鳥。冬期に新建・新谷団地，大浦・鬼ヶ浦団地とも数羽～十数羽の群れで観察される。

68. アオジ [Black-faced Bunting (W)] *Emberiza spodocephala*

冬鳥。1983. 4. 23と'83. 5. 4に第11林班でそれぞれ1羽を観察した。

アトリ科 Fringillidae

69. カワラヒワ [Oriental Greenfinch (W/R)] *Carduelis sinica*

県内全般では冬期に渡来するものが多く，冬鳥，一部留鳥とされる。新建・新谷団地では7～9月を，大浦・鬼ヶ浦団地では8月を除き周年観察され，特に冬に多い。

70. イカル [Japanese Grosbeak (W)] *Eophona personata*

1984. 8. 2，第15林班でさえずりを聞いた(薛)。県内では冬鳥とされているが，油山や古処山などでも夏に記録された。

71. シメ [Hawfinch (W)] *Coccothraustes coccothraustes*

冬鳥。第10～11林班で2～5月に数羽～十数羽の群れが見られる。

ハタオリドリ科 Ploceidae

72. スズメ [Tree Sparrow (R)] *Passer montanus*

留鳥。第10林班の事務所付近や周辺農耕地で周年普通に観察される。

カラス科 Corvidae

73. カケス [Jay (W/R)] *Garrulus glandarius*

新建・新谷団地でほぼ周年普通に観察される。県内では冬鳥，一部留鳥とされるが，演習林周辺では特に冬期に多くなることはない。

74. ミヤマガラス [Rook (W)] *Corvus frugilegus*

冬鳥。冬期に大浦・鬼ヶ浦団地周辺の耕地で大群が観察される。1983. 12. 22，第11林班(柳川)。

75. ハシボソガラス [Carrion Crow (R)] *Corvus corone*

留鳥。個体数は少ないが，大浦・鬼ヶ浦団地でほぼ周年観察される。

76. ハシブトガラス [Jungle Crow (R)] *Corvus macrorhynchos*

留鳥。新建・新谷団地，大浦・鬼ヶ浦団地で周年普通に観察される。

目録中、学名および英名は日本鳥学会(1974)により、福岡県内における季節移動の型は福岡県高等学校生物研究部会(1974)によった。

Scientific names and common English names follow The Ornithological Society of Japan (1974). The types of seasonal migration (W, winter visitors; R, residents; S, summer visitors; T, transients) in Fukuoka Prefecture follow The Biological Society of Fukuoka-ken Highschool Teachers (1974).

お わ り に

三郡・古処山地では、福岡県内で記録された288種の鳥類のうち、約90種がこれまでに観察されている(福岡県の自然を守る会, 1978)。本演習林では、1年余りの調査観察で、76種が記録され、年間を通して20種以上が、特に繁殖期には30種以上が限られた区域内で同時に観察されることがわかった。

調査を行なった2地区では、明らかに鳥相における差異が見られた。その特徴は、新建・新谷団地では森林性の鳥類、大浦・鬼ヶ浦団地では農耕地や集落周辺に多い鳥類や、農業用水池に集まる渉禽類や水禽類が記録されたことである。

新建・新谷団地の鳥相は、三郡・古処山地の鳥相の特徴をよく表わしており、この地区も三郡山地の森林と同様に、夏鳥や留鳥の繁殖地および旅鳥や冬鳥の休息地として、野鳥にとり利用価値の高い森林になっているといえる。

大浦・鬼ヶ浦団地は農耕地に接し、広葉樹二次林、針葉樹人工林、採草地および果樹園など多様な環境を備え、演習林事務所周辺にはナンキンハゼ、イイギリ、ネズミモチ、タチバナモドキなどが多数植栽されている。この地区は留鳥や冬鳥の冬期の採餌地として、また、カモ類やサギ類などの一時的な休息・採餌地としても役立っているようである。

今回の調査を通して、野鳥の生息という一面から見ても、粕屋演習林の林地がこの地域で重要な役割を果たしていることがうかがえ、その自然環境を維持していくことの意義が再認識された。

なお、調査実施と取りまとめにあたっては、本学部動物学教室の内田照章教授に御指導と御助言を賜り、同じく白石 哲助教授には御多忙にもかかわらず懇切なる校閲と専門的な御教示を頂きました。記して、深く謝意を表します。また、現地調査の実施にあたり、種々便宜を図って下さった粕屋演習林の矢山哲也総務掛長、椎葉 深業務主任、および数回の調査に同行して下さった動物学教室の古賀公也、青木 晋の両氏に厚く御礼申し上げます。

さらに、帯広畜産大学野生動物管理学研究室の藤巻裕蔵助教授は、薛が本学北海道演習林の鳥類目録(1982)を作成した際に、その校閲や標本同定をして下され、また、柳川の学生時代の指導教官でもあります。改めて日頃の御指導に感謝いたします。

引用文献

- 福岡県高等学校生物研究部会 (1974): 福岡県生物誌 脊椎動物編: 18~25, 55~65
- 福岡県の自然を守る会 (1978): 福岡県の自然 第4集, 福岡県の野鳥: 1~72
- 初島住彦 (1934): 粕屋演習林植物調査 (予報). 九大演報 4: 1~267
- 樋口広芳・中村一恵 (1983): 日本各地におけるハクセキレイとセグロセキレイの繁殖期の生育状況. *Strix* 2: 85~93
- 木下亀城・瀧本 清 (1936): 九州帝国大学農学部附属粕屋演習林付近の地質. 九大演報 9: 1~71
- 九州大学農学部附属演習林 (1984): 演習林概要: 8~11
- 日本鳥学会 (1974): 日本鳥類目録 改訂第5版. 学習研究社, 東京
- 日本野鳥の会福岡支部 (1983): 古処山早朝探鳥会—6月19日—. 野鳥だより ふくおか 57: 7
- 日本野鳥の会福岡支部 (1984): 鳥信. 野鳥だより ふくおか 58: 9

Summary

Surveys on avian fauna were carried out in two types of habitat, i. e. mountain forest with conifer plantation or broad leaved trees, and hill forest adjacent to cultivated fields, in Kasuya Forest of Kyushu University.

The sum total of 69 species of birds including 27 winter visitors, 21 residents, 12 summer visitors and 9 transients were recorded in the study areas.

In the mountain forests the dominant species were *Zosterops japonica* and *Hypsipetes amaurotis* in summer and *Turdus naumanni* or *Zosterops japonica* in winter.

Having various types of vegetation, Kasuya Forest is considered to be very important as a breeding and feeding site and also as a resting place for wild birds.